

指導のポイント

監修：白梅学園大学大学院／無藤 隆

執筆：共立女子大学／白川佳子(ねらい)

東京家政学院大学／和田美香(導入・展開の言葉かけ)

國學院大学／吉永安里(小学校へのつながり)



『キンダーまなびきっず』は、5歳の時期にふさわしい「考える力」が育つことを目指し、「ことば・かず・くふう」の3つの柱で、子どもたちが楽しく考えることができるようなページ構成になっています。子どもが日ごろの遊びや日常生活の体験をイメージし、自然に無理なく、楽しい気持ちで取り組めるように、「ねらい」「導入・展開の言葉かけ」「小学校へのつながり」のポイントを本書では紹介しています。保育の中で子どもたちと取り組む際に、ぜひ活用ください。

ことば(言葉・文字)

言葉のつかい方や文字の書き方、漢字の成り立ちについて楽しく学びます。

ことば P.8~9 しりとり

ねらい 言葉の終わりの音と同じ音で始まる言葉を見つけてしりとりを楽しむとともに、いろいろな線を書く練習にもなります。

導入の言葉かけのヒント

「だれかのお手紙があるよ。お手紙をもらおううれしいね」と声をかけ、「てがみ」の最後の文字は何かな?と一っしょに指で押さえながら、尾音の確認をするとよいでしょう。

展開の言葉かけのヒント

「み」で始まる言葉はどれかな?と、今度は最初の文字に注目します。「最初の文字と最後の文字が同じになるように、道を進んでみようね」と声をかけます。迷ってしまったら、「行き止まりのところもあるから気をつけてね」「もう一度戻って考えよう」と励まします。

● 小学校へのつながり

しりとり遊びは音や文字への意識を高め、辞書を引いたり図鑑を調べたりする国語や生活科などの学習につながります。また、各教科で必要な多様な語彙習得に役立ちます。



もじ P.12~13 ひらがな

ねらい それぞれの言葉を声に出して読んだり、文字をなぞったりしたあと、ひらがな書きにもチャレンジしてみましょう。

導入の言葉かけのヒント

「やぎの「や」にも、ちよんっ! と角みたいなものがついているね。形をよく見て、いっしょに書いてみようか」と、文字の形に興味をもつような言葉をかけて誘います。

展開の言葉かけのヒント

「書く順番は、矢印の数字の順番ね」と知らせます。書き順は、間違えて覚えてしまうとそのまま癖になってしまうので、最初にしっかり伝えましょう。「しんかんせんは、「ん」が3つも入っているね」と言葉の響きとの関連に気づけるような言葉かけもよいでしょう。

● 小学校へのつながり

幼児期には「曲がり」「止め」「はね」「払い」などの筆先の力の入れ方の違いを感覚的につかめるようにし、小学校で字形をととのえて書く文字学習につなげていけるとよいでしょう。



かんじえほん P.14 目・口

ねらい 絵を見ながら漢字の成り立ちに気づき、1年生で習う漢字に興味をもってもらうことを目的としています。

導入の言葉かけのヒント

「目の形や口の形が、漢字になっているんだね」と気づきを促します。指や鉛筆で形をなぞったり、色鉛筆で色を塗ったりしても、お絵かきの気分です。

展開の言葉かけのヒント

「目の形は、漢字になるときに、向きが変わって横から縦になるんだね」「これは形から漢字に変身しているね。かっこいいね」と、漢字の成り立ちを知ると、楽しいでしょう。筆順は番号を見て「1、2、3、4」といっしょに言いながら、文字を指でなぞってみましょう。

● 小学校へのつながり

幼児期に漢字の成り立ちや形のおもしろさに気づいたり興味をもったりすることが、小学校の漢字学習への意欲や、漢字の意味を推測する力につながっていきます。



かず (数量・図形)

思考力や認識力の礎となる、数や図形の基本的な概念について楽しく学びます。

すうじ P.18~19 数字(0~10)

ねらい 1から10までの数をかぞえたあと、数字を書く練習をしましょう。そして、0(れい)という数字の概念も体験してみましょう。

導入の言葉かけのヒント

「わあ！ てるてるぼうずがたくさん！ 同じ色の仲間をかぞえてみよう」と誘い、わかりにくい場合は、同じ仲間を鉛筆で丸く囲んでからかぞえてもよいでしょう。

展開の言葉かけのヒント

数をかぞえながら、数字をていねいに鉛筆で書いていきましょう。途中で0(れい)の存在に気づいたら、「あれ、なんだろう？ これは、なんにもないよ、という意味だね」と確認します。遊びの中でおはじきの色分けなどをしたときに、0(れい)の概念を確認するのもよいでしょう。

● 小学校へのつながり

何もないことを意味する0という概念や、それを表す数字があることに気づき、興味をもてるとよいでしょう。算数の0を含む四則計算の理解につながります。



かず P.22~23 1対1対応

ねらい 見本をよく見ながら、5種類の物が5個ある場合の物と数の対応を学びます。

導入の言葉かけのヒント

「みんなが大好きなおみやげ、見本と同じように袋に入れようね。足りないお友だちが泣いちゃうと困るから、よく見て入れてね」と、おまごご気分を楽しみましょう。

展開の言葉かけのヒント

園の活動でも、給食の配膳などをする中で「物と数の対応」について自然に学んでいます。シールを貼り忘れてしまうことがあるかもしれませんが、そんなときは「足りないよ～って泣く子がいると困るから、もう一度かぞえてみよう」と、ひとつずつ袋の中を確認するとよいでしょう。

● 小学校へのつながり

ある物とある物が異なるものであっても「1つと1つ」として対応することに気づき、実感することが、算数の数字の意味や数の大小の理解につながっていきます。



かたち P.24~25 描写(縦・横・斜め)

ねらい 見本をよく見ながら線をつないで形を描くことで、ひらがなを書く前段階である運筆の練習にもなります。

導入の言葉かけのヒント

「鉛筆をしっかりとって、見本を見ながら線を引こうね」「最初はポンみくだね。次はお家みくだね」と、背景の絵との関連も見ながら書く楽しさを感じましょう。

展開の言葉かけのヒント

形が複雑になってきて、とまどう姿が見られる場合は、「四角の中にまた四角があるね」「三角が4つあるよ」などと、知っている形を全体の中から見つけられるような声をかけるとよいでしょう。線を書いた後、背景の絵を見ながら、色鉛筆で色を塗っても楽しいでしょう。

● 小学校へのつながり

縦・横・斜め、長短の線をしっかりとした筆圧で書くことは、文字を書く力の基礎となります。手首を柔軟につかかって、力強く書けるようにしましょう。



くふう (思考・創造)

自ら考え創意工夫する力(思考力・創造力)を養い、小学校での学びの土台を育みます。

くふう P.28~29 弁別

ねらい 左右の絵をよく見比べることによって、同じものと違うものを見分け、識別する力を養います。

導入の言葉かけのヒント

「雨の中のお散歩、楽しそうだね。カエルもいるシカツツリもいるね。同じ絵に見えるけれど、右と左の絵の中に違うところがあるよ。見つけられるかな？」と声をかけ、導入します。

展開の言葉かけのヒント

なかなか見つけられない場合は「アジサイのお花はどうか？」「カエルはどうか？」と種類ごとに確認してみましょう。また空の部分、地面の部分、緑の葉っぱの部分と分割して探してもよいでしょう。見つけたところを鉛筆で印をつけて、違いが6つになるまで探しましょう。

● 小学校へのつながり

両方の絵を注意深く観察する力とその違いを説明する表現力を高めることは、国語や算数の説明活動や、生活科や理科の観察で求められる力の向上につながります。



くふう P.30~31 空間認識

ねらい 場所や位置を把握し対応させて、一つひとつの場所を確認しながら、空間を認識する能力を育みます。

導入の言葉かけのヒント

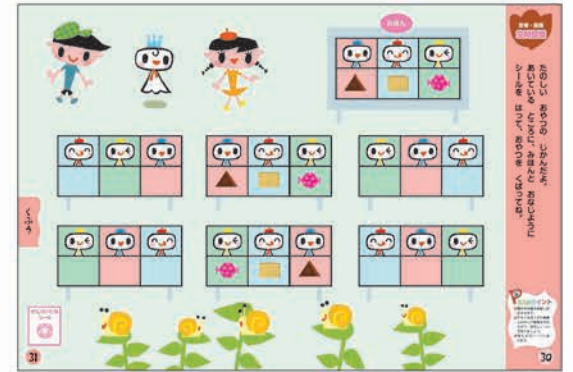
「わあ！ うれしいおやつ。みんな、おなかが空いたって言っているよ。お当番さんになって、おやつを配ってあげようね」と誘い、楽しみながらシールを貼りましょう。

展開の言葉かけのヒント

てるてるぼうずの色とおやつの種類を対応させて、シールを貼っていきます。位置が変わっていると、とまどってしまうかもしれませんが、「青ちゃん(てるてるぼうず)は三角のチョコケーキ、赤ちゃんはクッキー、黄色ちゃんはアメだね」などと確認すると、わかりやすいと思います。

● 小学校へのつながり

位置を特定する力は算数の順序数や図形の理解につながります。また、ある物とある物に特定の関係があり、枠組みに整理できることに気づくことは、図表の理解につながります。



くふう P.32~33 関連性

ねらい 関連するものと関連しないものを識別しながら、迷路遊びを楽しみましょう。

導入の言葉かけのヒント

「どんな楽器を知っている？」「動く車にはどんなものがあるかな？」と問いかけ、いくつか挙げてから取り組むとスムーズです。新たな発見も喜びになるでしょう。

展開の言葉かけのヒント

進むうちに、どちらを選ぶのか迷ってしまった場合は、「いい音の出るものはどちらかな？」などとヒントを出しながら進めるとよいでしょう。「この楽器はどんな音が出るかな？」とそれに関連する質問をするなど、やりとりをしながら進めると楽しい時間になるでしょう。

● 小学校へのつながり

物事の関連性を理解し分類する力は、身のまわりの整理整頓といった基本的な生活習慣を支える力から、各教科で求められる学問的な分類体系の理解まで、ずっとつながっていきます。

